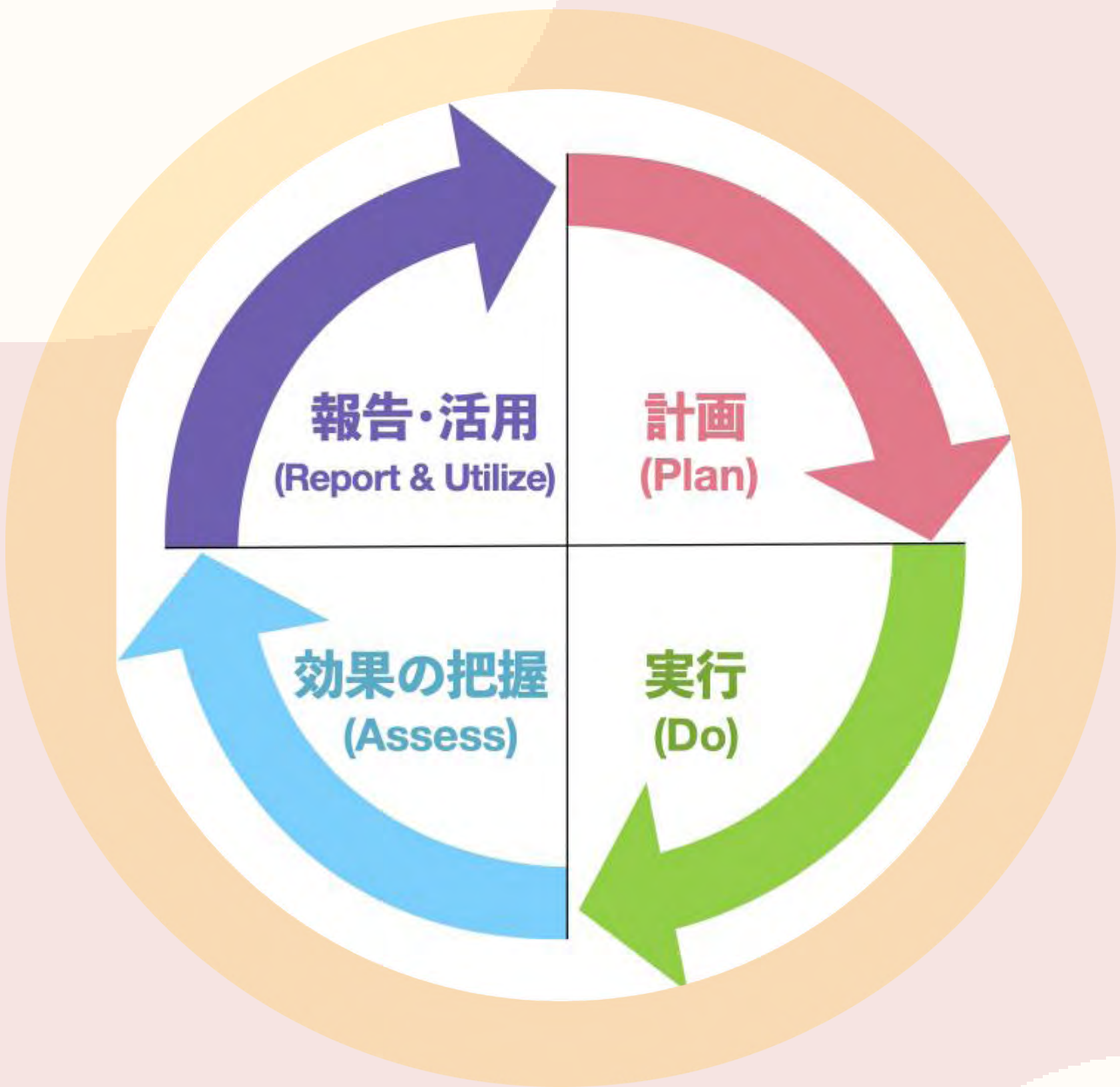


小地域福祉活動

新PDCAサイクルのてびき

version 1



新PDCAサイクル（時計回り）

STEP 4

結果と成果の報告（翌々年3月）

➡地域住民への報告

STEP 3

上半期 振り返り（翌年10月）

当年度 振り返り（翌々年2月）

➡活動の結果と成果の検証

STEP 1

実施計画の作成（11月）

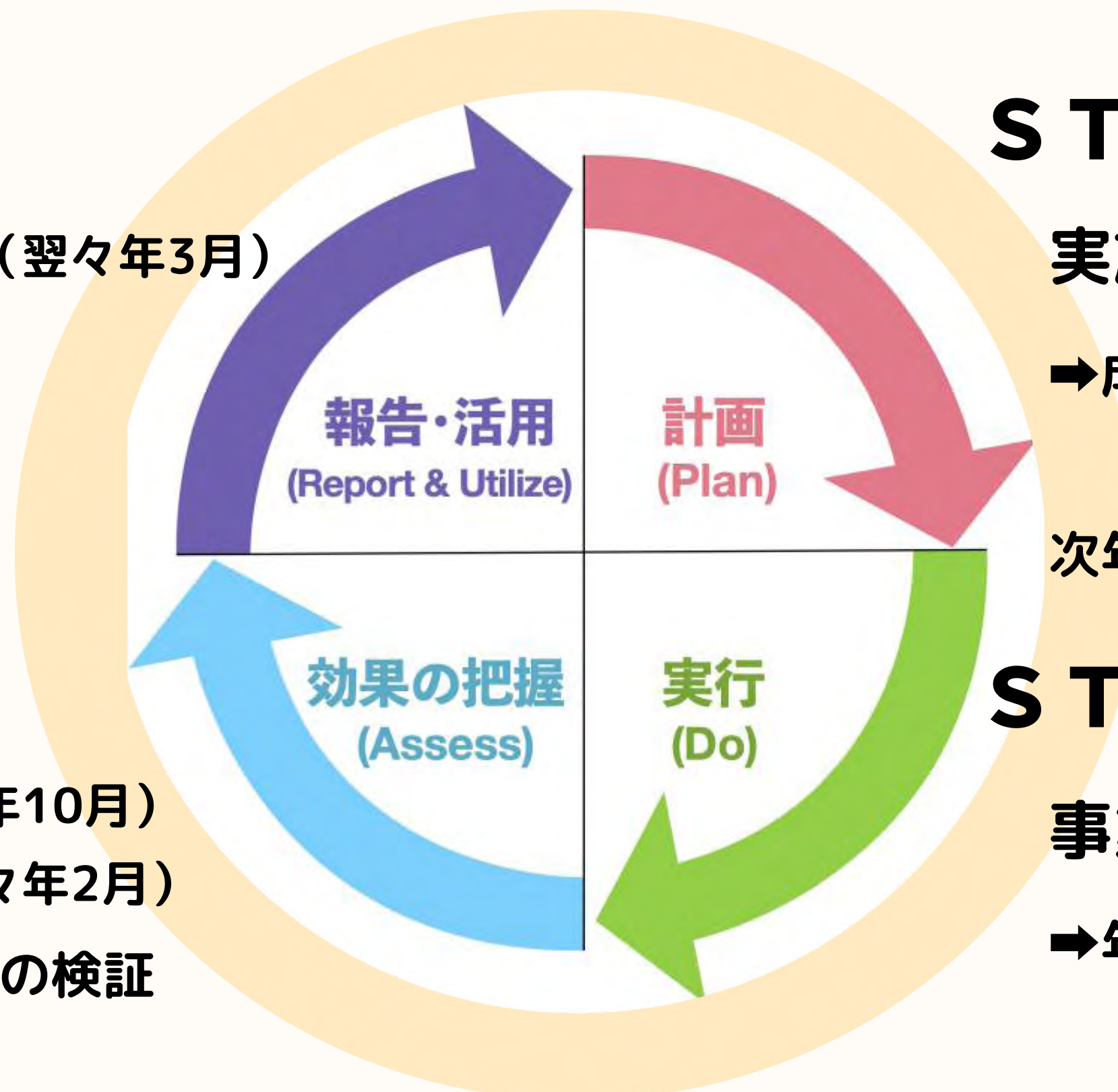
➡成果の指標と目標値の設定

次年度計画予算決定（3月）

STEP 2

事業の実施（翌年4月）

➡年間計画の進行管理



実施計画の作成

STEP 4

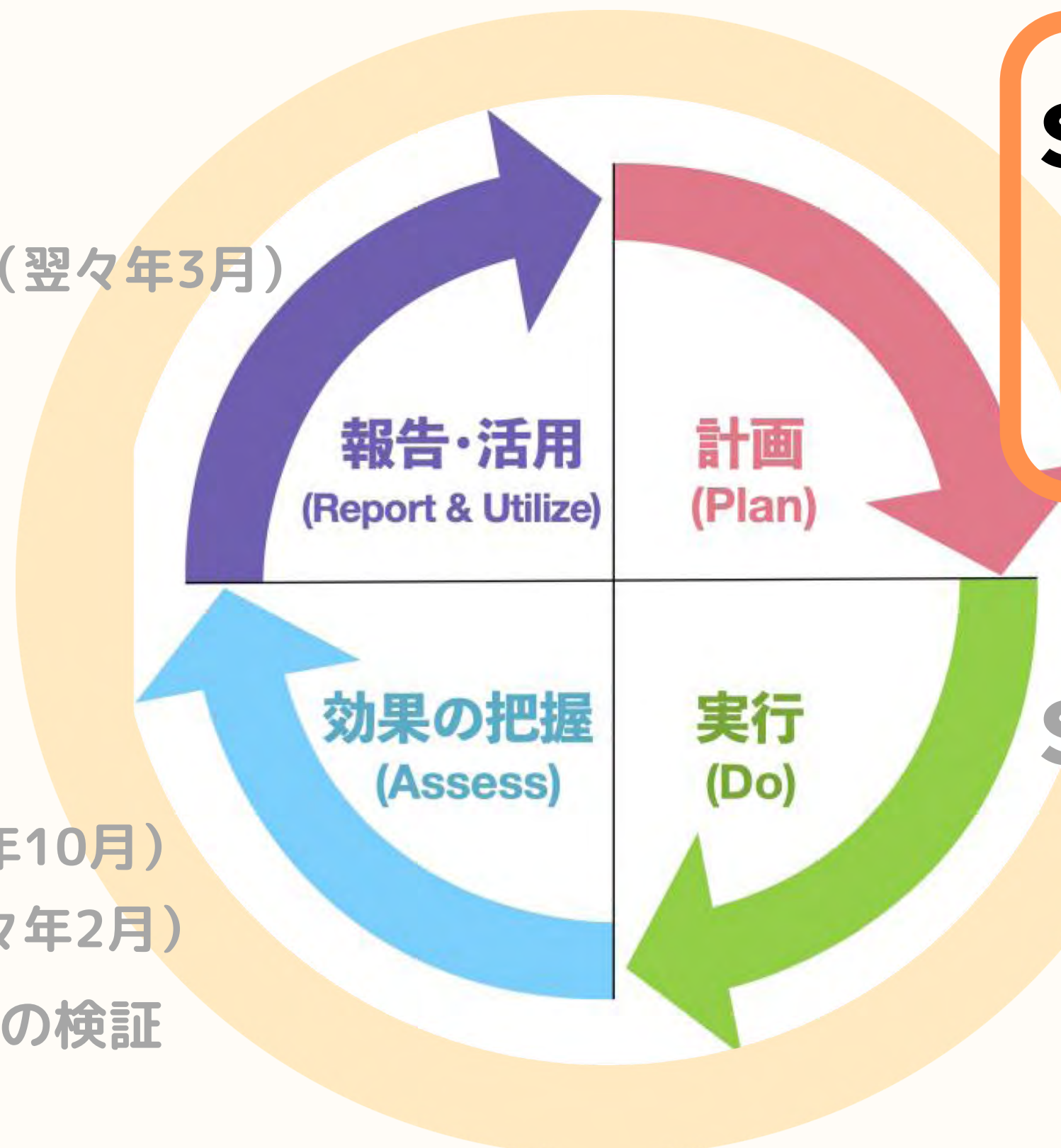
結果と成果の報告（翌々年3月）

→ 地域住民への報告
情報発信

STEP 3

上半期 振り返り（翌年10月）
当年度 振り返り（翌々年2月）

→ 活動の結果と成果の検証



STEP 1

実施計画の作成（11月）

→ 成果の指標と目標値の設定

次年度計画予算決定（3月）

STEP 2

事業の実施（翌年4月）

→ 年間計画の進行管理

STEP 1 小地域福祉活動 実施計画の作成（11月）

「成果」とは

短期、長期を含めて 事業や取り組みの **結果**（※） がもたらす変化や便益。
事業実施後に直接、間接の影響として 市民や関係者に現れてくる
知識・意欲・行動態度・スキルなどの変化。（プラスもマイナスもある）

例【事業】

【結果】

【成果】

子ども食堂 ➡ 月4回の食事提供 ➡ 必要な栄養の摂取、幸福感、孤立感の解消（短期）

（年48回）

➡ 不安や悩みを話せるようになる、自己肯定感の向上（中長期）

★最終的に達成したいこと、実現したい未来

➡ 近所から騒音や駐輪場所の苦情があった。（予期しない成果）

※ **結果**

事業や取り組みにより直接生じるもの。

（例：活動回数、期間、参加者数、資料配布数など）

STEP 1 小地域福祉活動 実施計画の作成（11月）

指標・目標値とは

指標は、事業の結果や成果を、何で測るかを示すもの。
指標を設定することで「達成したいこと」が明らかになる。
計画どおりに事業が行われているか **客観的**に判断ができるようになる。

目標値とは、達成したい指標の程度を示した値。目標値を設定することで、初期値との比較が可能になる。

【例】	内容	➡ 指標	➡ 目標値
結果	子ども食堂の実施	➡ 開催回数	➡ 毎月8回
結果	子どもの来所	➡ 参加人数	➡ 20人/回
成果	不安・悩みを話せる	➡ 相談できる大人がいる	➡ 子どもの3割（聞き取りで把握）

STEP 1 小地域福祉活動 実施計画の作成 (11月)

- ① 目標 : ビジョンと目的の実現につながる翌年度の目標を記入
- ② 事業概要 : 目標にかかる翌年度の取り組み概要を記入
- ③ 目指す成果 : 取り組みがもたらす変化や便益、意識や行動の変化、周困への影響などを記入
- ④ 成果につながる活動 : 具体的な取り組み、成果の把握方法など記入
- ⑤ 収入支出 (見込) : 活動に必要な予算を計上
- ⑥ 社会資源 : 活動に関わる資源を記入
- ⑦・⑧ ビジョンから社会資源、社会資源からビジョンまで流れが繋がっているかを確認

【成果指標・測定方法 参考サイト】

社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ
アウトカム指標データベース



https://simi.or.jp/tool/outcome_indicators_db

東久留米市民地域福祉活動計画 (第三次) 記入例
○○ 地域 小地域福祉活動 実施計画 (令和5年度)

⑦ ビジョンから⑥社会資源まで、流れはつながっているか

⑧ ①一番下(6社会資源)から⑦ビジョンまで、流れはつながっているか

【ビジョン】
地域で暮らす誰もが差別や排除をされず、一人の人間として尊重され、持てる能力に応じた自立生活を営める地域をつくる。

【目的】
身近なところに、地域の福祉のために活動している人たちと場所(拠点)があって住民同士が互いに声をかけあい、困りごとを解決できるようにする。

1 目標	
① ビジョン、目的の実現につながる目標を記入	
2 事業概要	
② 上記の目標を達成するため 令和5年度 で取り組む事業の概要を記入	
3 目指す成果: 事業がもたらす変化や便益、意識や行動の変化、周困への影響等 (例: 福祉ニーズの把握、住民が「我が事」と考える意識の向上)	
③ 上記の事業概要の中で 令和5年度 でもたらしたい成果を記入	
4 成果につながる活動 (例: 住民アンケート 500 件、懇談会 3 回・聞き取り調査)	
④ 上記の成果につながる具体的な取り組み、成果の把握方法などを記入	
5 収入支出 (見込)	
【収入 円】 (内訳)	【支出 円】 (内訳) ⑤ 活動に必要な予算を計上
6 社会資源 ヒト (キーマン)、モノ、カネ (財源)、つながり、関係機関、団体等	
⑥ 活動に関わる資源を記入	

小地域福祉活動 実施計画の作成（例） 地域福祉拠点立ち上げ・運営

- ① **目標：**
空き家活用にて地域共生社会の考え方に基づく地域福祉拠点を立ち上げる。また出入り自由な常設カフェの運営委員会を立ち上げる。居場所利用や小さな困りごと解決のための自主組織をつくる。
- ② **事業概要：**
 - ・ 空き家オーナーとの賃貸借契約、リフォーム実施計画作成
 - ・ 拠点候補地域（幸町）キーマンピックアップ、コアスタッフ候補の確保。拠点準備会を開催し情報・意見交換をする。
- ③ **目指す成果：**
 - ・ 福祉ニーズの把握と運営サポーター（8人）の確保
 - ・ 「我が事」意識の向上（コア、サポーターの70%、聞き取り調査）
- ④ **成果につながる活動：**
 - 幸町地区2,500世帯アンケート調査（回答率30%750件）
 - 拠点準備会6回、常設カフェのテスト開催（月4回×3か月=12回）
- ⑤ **収入支出（見込）：**
 - 収入：100,000円（寄付金）、2,500,000円（社協）
 - 支出：2,600,000円（賃貸料、光熱水費、改修費、郵送料ほか）
- ⑥ **社会資源：**
 - 幸町一丁目アパート自治会、ひのき会、幸町五丁目自治会、前沢宿自治会、神明山自治会、一本杉自治会、中部地域包括C民生児童委員、個人ボランティア、FS協力会員

⑦



⑧

東久留米市民地域福祉活動計画（第三次） 記入例
○○ 地域 小地域福祉活動 実施計画（令和5年度）

⑦ ビジョンから一番下（6社会資源）まで、流れはつながっているか

⑧ 一番下（6社会資源）からビジョンまで、流れはつながっているか

【ビジョン】
地域で暮らす誰もが差別や排除をされず、一人の人間として尊重され、持てる能力に応じた自立生活を営める地域をつくる。

【目的】
身近なところに、地域の福祉のために活動している人たちと場所（拠点）があって住民同士が互いに声をかけあい、困りごとを解決できるようにする。

1 目標	
① ビジョン、目的の実現につながる目標を記入	
2 事業概要	
② 上記の目標を達成するため 令和5年度 で取り組む事業の概要を記入	
3 目指す成果：事業がもたらす変化や便益、意識や行動の変化、周囲への影響等 (例：福祉ニーズの把握、住民が「我が事」と考える意識の向上)	
③ 上記の事業概要の中で 令和5年度 でもたらしたい成果を記入	
4 成果につながる活動（例：住民アンケート500件、懇談会3回・聞き取り調査）	
④ 上記の成果につながる具体的な取り組み、成果の把握方法などを記入	
5 収入支出（見込）	
【収入 円】 (内訳)	【支出 円】 ⑤ 活動に必要な予算を計上 (内訳)
6 社会資源 ヒト（キーマン）、モノ、カネ（財源）、つながり、関係機関、団体等	
⑥ 活動に関わる資源を記入	

資源	活動内容 (手段)	取り組むこと (結果)	もたらしたい変化 (成果)	実現したいこと	目的
<p>【人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員10名 ・会員20名 ・児童・生徒5名 ・5つの自治会 <p>【お金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会費 ・寄付 ・協賛（自治会、企業） ・地域福祉活動補助金 ・財団助成金 <p>【モノ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビブス <p>【場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩の里けやき園 ・地域交流スペース ・弥生台自治会集会所 	<p>①防災まち歩き 防災マップづくり</p> <p>②街かど防災訓練</p> <p>③秋祭り・防災訓練</p>	<p>①実施2回 安全・危険な避難経路の確認 参加者数：50人</p> <p>②実施1回 対象世帯の緊急時避難経路の確認 個別避難計画の作成 対象1世帯</p> <p>③実施1回 打ち合わせ4回 自助・共助訓練 参加者数：50人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要支援者が安心して避難できる ★安心が増した（8割） ・防災意識が高まる ・子ども企画親子訓練で若年層の参加が増える ・昔あそびで多世代交流が生まれる ・バリアフリーイベントで障がい理解がすすむ ・同世代、異世代での顔見知りが増える ★大人、異世代との会話・交流ができた（5割） ★顔見知りが増える（5割） 	<p>災害時に支援や配慮が必要な人が安全・安心して暮らしている</p> <p>様々な差別や偏見を解消し、誰もが孤立せずに暮らしている</p> <p>困ったときに「助けて」と言える人と人との関係がある</p>	<p>弥生地区の暮らしの困りごとを共有する</p> <p>生活課題の解決に向けて話し合い、できることに取り組む</p> <p>顔の見える関係をひろげて誰もが住みよいまちづくりをすすめる</p>
	<p>④役員会（4人）</p> <p>⑤定例会（9人+α）</p> <p>⑥総会（15人）</p>	<p>④実施6回 参加者数：24人</p> <p>⑤実施6回 参加者数：60人</p> <p>⑥実施2回 参加者数：30人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民主的かつ効率的な会議ができる ・困りごとや気になることを抱え込まなくなる ・実現したいことにつながる活動を検討できる ・主体的な取り組み意識の高まり、やりがいが増す ★活発に議論ができた（8割） 	<p>誰もができることで役割をもち、自分らしく活躍できている</p> <p>関係機関や行政等と協働して課題解決ができる</p>	
	<p>⑦ニュースレター配布</p> <p>⑧メールニュース</p>	<p>⑦年6回全戸600世帯</p> <p>⑧年6回以上登録者30人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい日本語で記事を作成する。国際友好クラブと連携 ・埋もれがちな情報を知らせる ★知って良かったこと、役立つ情報がある（4割） 	<p>持続可能な活動により夢や希望がもてる暮らしを次世代に引き継ぐ</p> <p>皆で助け合い、楽しみながら活動している</p>	
	<p>⑩ふりかえりと改善</p>	<p>⑩PDCAサイクル1回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を皆で評価できる ・成果を可視化できる ・次の活動の継続・改善に役立っている 	<p>取り組みや成果が可視化され、皆で評価をすることができる</p>	

事業の実施（4月～）

STEP 4

結果と成果の報告（翌々年3月）

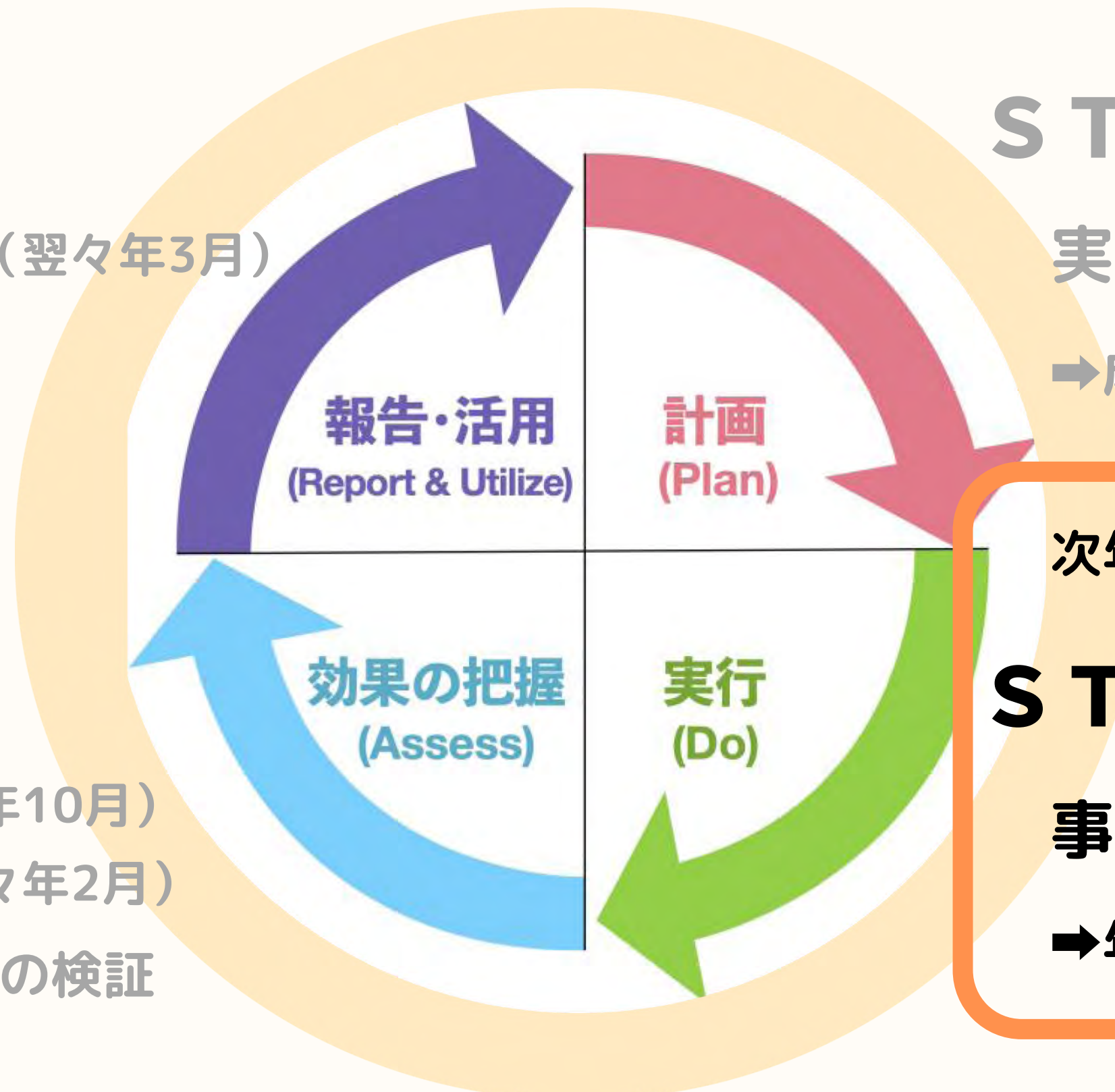
→地域住民への報告

STEP 3

上半期 振り返り（翌年10月）

当年度 振り返り（翌々年2月）

→活動の結果と成果の検証



STEP 1

実施計画の作成（11月）

→成果の指標と目標値の設定

次年度計画予算決定（3月）

STEP 2

事業の実施（翌年4月）

→年間計画の進行管理

STEP 2 事業の実施 年間計画の作成（2・3月）

年間スケジュールの作成

実施計画で定めた「3.目指す成果」にかかる「4.成果につながる活動」を **一年の間でいつ（どのよう）に実施するか** 地域担当内で話し合い、共有する。

事務事業名	主担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
小地域福祉活動 東部	宮田 藤野 中迫							上半期振り返り	次年度予算作成 成果指標・ 目標値の設定		
		<p>【事業概要】 令和4年度に実施したアンケート調査の結果を支え合い（生活支援）事業の礎とし、支え合い事業（仮称）要綱を作成・共有する。年に3～4回、支え合い懇談会内容を住民に知らせるために通信を作成し、配布する。</p> <p>【目指す成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が1人の困りごとについて「我が事」として捉え、ともに協力し解決できるようになる。（全1,003世帯の内10世帯：約1%リーダー層） ・困りごとや不安があった際の相談先の選択肢が増える。相談先のイメージがつくようになる。（令和6年度アンケートで測定） <p>【成果につながる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支え合い懇談会の実施・仮称3～4回/年（うち2回は社会福祉法人の活動紹介を盛り込んだイベントを予定） ・支え合い事業（仮称）立ち上げに向けたヒアリングの実施 ・イベント周知や懇談会報告（事業の進捗状況等）を共有するための通信作成と配布。 									

STEP 2 事業の実施（4月～）

プロセスの管理（確認すること）

- 年間スケジュールに定めた時期に活動が実施できているか。
- 目指す成果につながる活動（結果）になっていたか。
- そもそも実施されていない、別の活動が実施されている場合など、労力や時間をどの活動に費やすのか 担当内で検討・共有したか。
- 予期した成果につながっていたか。予期していなかったことは何か。
（プラスの成果とマイナスの成果の両方を確認する）

計画は一つの仮説ですが活動をすすめる拠り所です。計画を大切にしつつ、**計画外のこともあり得ること**を前提に柔軟性をもって取り組みます。

振り返り 上半期・下半期（10月・2月）

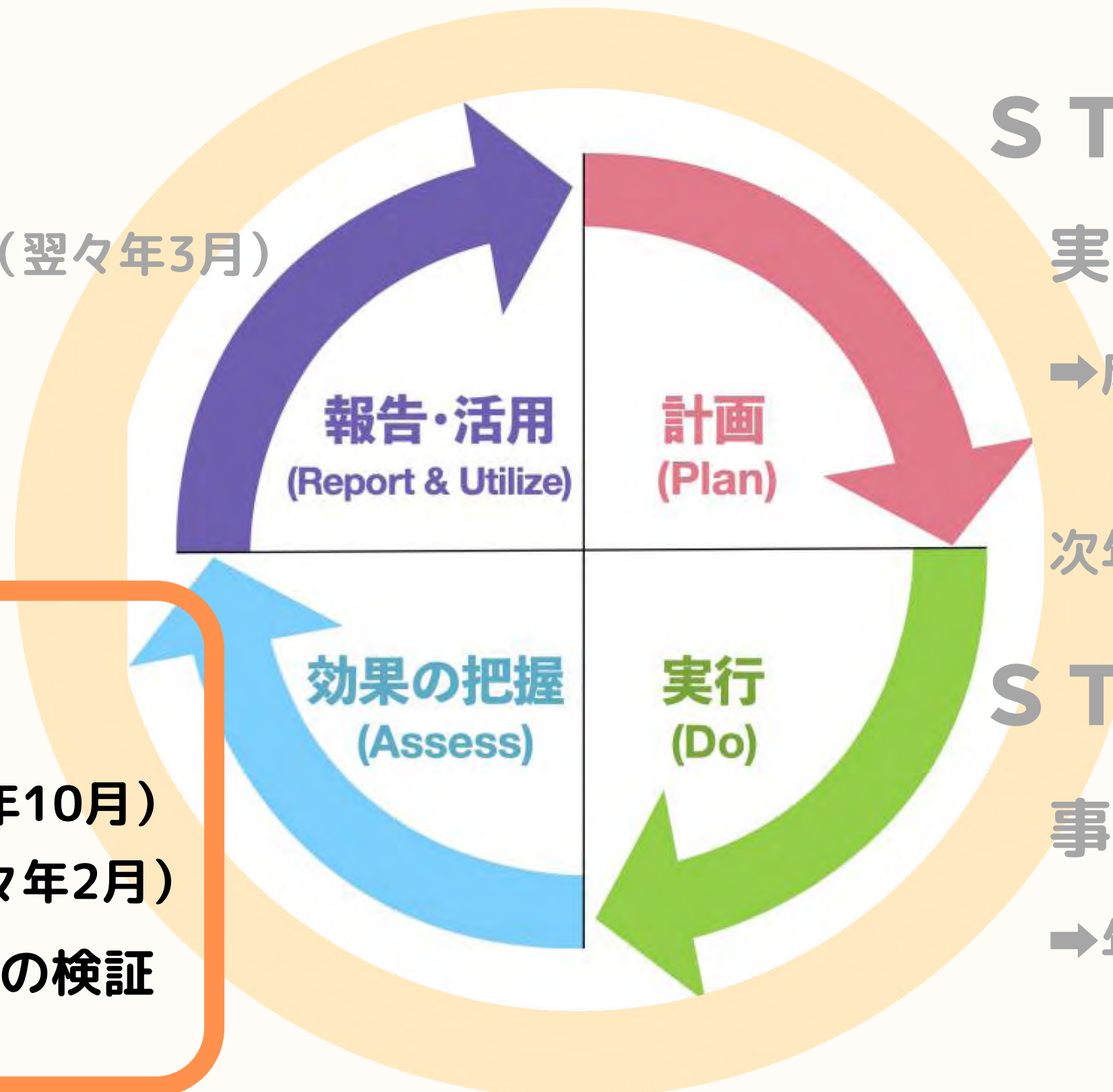
STEP 4

結果と成果の報告（翌々年3月）

→地域住民への報告
情報発信

STEP 3

上半期 振り返り（翌年10月）
当年度 振り返り（翌々年2月）
→活動の結果と成果の検証



STEP 1

実施計画の作成（11月）

→成果の指標と目標値の設定

次年度計画予算決定（3月）

STEP 2

事業の実施（翌年4月）

→年間計画の進行管理

STEP 3 上半期・下半期 ふりかえり（10月・2月）

活動の結果と成果の検証

- 計画通りに活動を実施、結果がでたか。
- 活動の結果、生み出された成果はなにか。
（予期してなかったプラスの成果とマイナスの成果も確認する）
- 重視していた成果は、どの活動によって、どの程度生じたか。
（計画で定めた成果の指標と目標値を基に活動の意義を確認する）
- 来期に向けた学びは何か。

「今後どのような行動をすべきか」を未来志向でフラットに考えるため、
「地域担当職員セルフチェックシート」を用いた評価を担当内で共有します。

STEP 3 上半期・下半期 ふりかえり（10月・2月）

活動の結果と成果をまとめる

（例）令和5年度 西部地域 小地域福祉活動 実施計画より

項目	活動	指標	目標値	測定方法
結果	打ち合わせ	協議の回数	6回	会議要旨
	滝山3・4丁目アンケート	回答数	370件	回答数
	報告会・防災講座等	開催数	2回	会議要旨
成果	報告会・防災講座	防災の意識が高まる	70%	参加者アンケート
	懇談会	顔見知りが増える	70%	参加者アンケート

各活動の結果と関わる市民や関係機関等に対して、アンケートや聞き取りなどを実施し、成果を収集（次ページ以降参照）してまとめます。

STEP 3 上半期・下半期 ふりかえり（10月・2月）

成果の収集方法①

観察・立ち話（例）懇談会の場合

観察（目で見る）

立ち話（耳で聴く）

休憩中、
隣の人同士で
おしゃべりが
盛り上がっている

会場の片づけなど
声をかけあって
協力している

帰ったら家族で
どこに避難するか
話し合おうと思う

久しぶりに会えて
よかった。近くに
いったら声かけるね

活動をすすめながら、現場で関係者を観察したり、何気ない立ち話の中から成果を収集する。

STEP 3 上半期・下半期 ふりかえり（10月・2月）

成果の収集方法② インタビュー・アンケート

インタビュー

- 対象者の心理的な変化などを把握する際に実施する。
- 誰にインタビューするのかよく検討する。
- リラックスして過ごせる時間をつくる。



アンケート

- 実施に時間と労力がかかるため、必要性を確認する。
- 調査した結果が課題解決に向けた行動につながるよう内容や設問を設定する。
- 自由回答など定性情報も属性でまとめて数値化を図る。



STEP 3 上半期・下半期 ふりかえり（10月・2月）

成果の収集方法③（例）防災まち歩きの場合

グループインタビュー・ワークショップ

地図上で道があっても
災害時は通れなくなる
のではと不安を感じた

初参加の人と会って、
親しくするきっかけに
なるとは思わなかった

大人だけではなく、
小・中学生たちも
巻き込んでできると
お互いに見守りになる

お互いの意見やエピソードに刺激を受けて思考が進み
個別では出てこなかった声が出てくる場合があります。
（想定していなかったこと、マイナスの成果も出し合う）



STEP 3 上半期・下半期 ふりかえり（10月・2月）

定性的・定量的手法の特徴

定性的手法		定量的手法	
聴き取り、インタビュー、アンケートの自由記述		チェックリストによる観察、アンケート	
メリット	デメリット	メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">○調査の設計が比較的簡単にできて、導入しやすい。○サンプル数が少なくても大丈夫○対象者から直接情報を得るため、具体的な話や問題点の深堀りができる。	<ul style="list-style-type: none">○一般化できない○インタビュー、懇談会などは実施者にスキルが必要○数値化ができない。	<ul style="list-style-type: none">○一度に大人数の対象者に調査ができ、サンプルから母集団への一般化ができる。○結果を数値化することによって、全体像や割合がわかりやすい。○適切に設計された調査は、蓋然性が高く根拠として信頼性が高い。	<ul style="list-style-type: none">○意図を明確にしないと回答者の真意が反映されない。○調査の設計、分析にスキルが必要○質問に対する回答しか得られず、問題点の深堀りが難しい。○ある程度のサンプルが必要

結果と成果の報告（3月）

STEP 4

結果と成果の報告（翌々年3月）

→ 地域住民への報告
情報発信

STEP 3

上半期 振り返り（翌年10月）
当年度 振り返り（翌々年2月）

→ 活動の結果と成果の検証

STEP 1

実施計画の作成（11月）

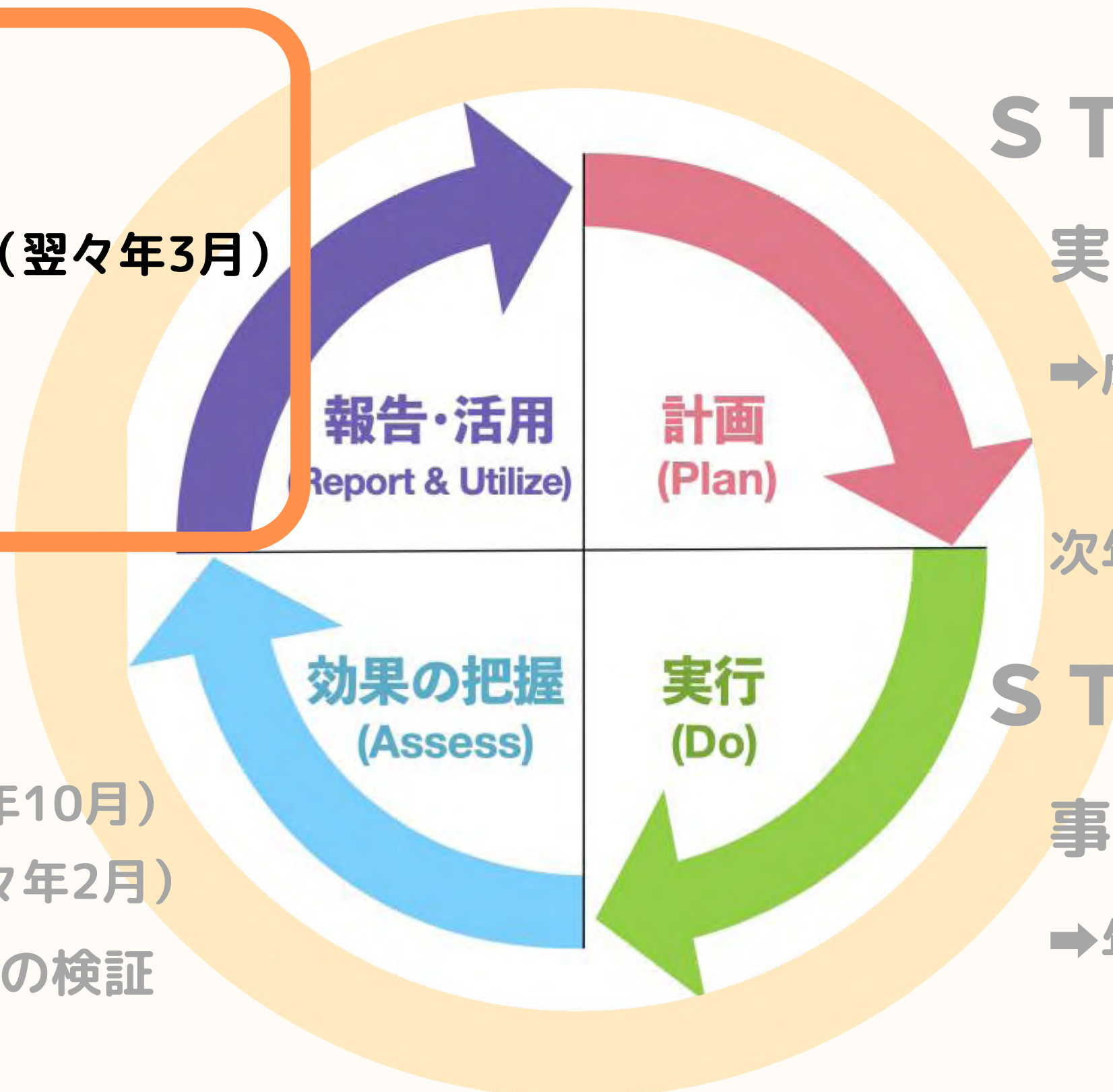
→ 成果の指標と目標値の設定

次年度計画予算決定（3月）

STEP 2

事業の実施（翌年4月）

→ 年間計画の進行管理



STEP 4 結果と成果の報告（3月）

報告は 誰のため 何のためにするか

誰のために

何のために

内部

- 職員ミーティング
- 理事会・評議員会

- ・意思決定に活用する
- ・さらなる事業改善
- ・学びの共有

**役職員への報告、
意思決定への活用**

外部

- 市民(会員、寄付者)
- 自治会
- 関係団体
- 企業等

- ・説明責任
- ・新たな資源獲得
- ・人々の巻き込み
- ・学びや生活課題の共有

**情報発信と新たな参加協働
(巻き込み)に活用する。**

活動のプロセスと得られた成果による学びを、次の動きにつなげていく

STEP 4 結果と成果の報告（3月）

成果報告としてまとめる（5つの基本構成）

1 活動実施の背景・目的

地区内のどのような福祉ニーズ、課題の解決を目指したのか。

2 実施した活動の全体像

ニーズや課題に対してどう取り組み、どんなステップで課題解決に至ると考えたか。

3 活動内容と結果・成果

具体的に取組んだこととその結果、もたらされた成果は何か。

4 成果の指標・目標値に関するデータ分析、成果による貢献度

成果を達成したと言える根拠をまとめる。

5 振り返りのポイント

評価結果からの学び、今後の改善のための教訓は何か。

STEP 4 結果と成果の報告（3月）

成果報告例

- 令和3年度 地域協働事業（住みよいまち弥生）実施報告書
社協HP 地域福祉コーディネーター配置事業

<https://www.higashikurume-shakyo.or.jp/csw.html>



- 文京区こども宅食プロジェクト
第4期（2020.10～2021.9）インパクトレポート

<https://kodomo-takushoku.jp/archives/5519>



STEP 4 結果と成果の報告（3月）

情報発信と新たな参加協働の促進

（例）地区お祭りの成果報告

道具はあるから
お祭り以外に親子で
できる餅つきとか
楽しいのでは！

関係団体

自治会で寄付を集めたら
子ども向けの景品が充実
して、さらに集まる
のではないかな。

自治会長

子どもたちに自然と
挨拶できるようになった。
子どもスタッフも募って
やってみよう！

地域住民



活動の写真・動画も活用して、改善点を次の動きに活かす。
多様な関係者と共有し、理解者や支援者の輪を広げる（巻き込む）こと。

新PDCAサイクルの基盤となる要素

組織文化の醸成・ガバナンスの構築

○ 組織文化とは ★要確認「小地域福祉活動の更なる推進のためのてびき」

個々の役職員の価値観が、行動規範・判断規範として融合して形成されたもので、組織の中で共有化されていくもの

○ 組織文化を醸成する意義

- ・ **進む方向性** や **価値観** が明確になる。
 - ・ 期待されている **行動規範** が明確になる。 ➡
 - ・ 物事に対する **判断基準** が明確になる。
- ・ 自主的に判断し、意思決定や行動が速くなる
 - ・ 伝達が円滑に。認識のすり合わせが容易になる
 - ・ エンパワメントされ、創造性が増す

新PDCAサイクルの基盤となる要素

組織文化の醸成・ガバナンスの構築

○ ガバナンスとは

組織全体の方向性、有効性、監督機能、説明責任が果たされるようにするための仕組みやルール、体制のこと

○ ガバナンスを構築する意義

- ・ 持続的な取り組みと適切な意思決定により、ビジョンや目的を実現することにつながる。
- ・ 見える化→共通認識→合意形成→意思決定のプロセスを得ることで、担当職員の納得感、信頼感が醸成される。

醸成していく組織文化とガバナンスを礎にして
関わりの輪を外にも広げていく



2D



3D

新PDCAサイクル（時計回り）を

まず地域担当で続けつつ、

慣れてきたら地域住民も

巻き込んでともに計画

づくりから始めましょう。

小地域福祉活動による成果を

見える化する仕組みをきっかけに

理解者や協力者を広げましょう。



小地域福祉活動 新PDCAサイクルのてびき

発行 令和5年3月 version 1

作成 社会福祉法人東久留米市社会福祉協議会

東京都東久留米市滝山4-3-14 わくわく健康プラザ2階

TEL 042-471-0294